

浦幌町立博物館だより

令和3(2021)年3月号

編集・発行：浦幌町立博物館 ☎089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16-1 ☎015-576-2009 / ✉museum@urahoro.jp

今日も博物館はチラシを集める

2020年2月28日、北海道知事は新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言を発表。全国にさきがけて、北海道は、感染拡大防止のために思い切った施策に舵を切り、私たちの暮らしは急速に変化をとげていきます。

あれから一年。コロナへの対応で右往左往したこの間に、私たちの暮らしはどのように変化してきたのでしょうか？

コロナで変わった暮らし

浦幌町立博物館では、この一年間に、毎日の新聞折込チラシや各種のお知らせ、貼り紙、文書などを集めてきました。このたび、北海道独自の緊急事態宣言から一年が経過したことを機会に、収集した資料を展示して、コロナ禍の暮らしの変化を振り返る企画展を開催しています。

いまなぜ博物館は、こうしたチラシや貼り紙の収集に躍起になっているのでしょうか？

企画展「コロナな時代を語り継ぐために」の会場。4月11日まで開催。3月7日と10日には、関連講座も開催します(裏面の行事案内をご参照ください)。



生活史を記録するために

歴史の評価をまだ受けていない「生の日常の資料」。いま全国の博物館や文書館などで、これらを集める動きが広がっています。共通しているのは「この時代を忘れない」こと。

いまだ感染拡大の渦中にあるときだからこそ、素の日常を記録できる題材が出回っています。捨てられるチラシのなかに、やがて歴史となる「いま」が刻まれているのです。

博物館は今後も、コロナ関係資料の収集を続けていきます。

(浦幌町立博物館 学芸員 持田 誠)

「コロナな世相」を伝える

こんな資料を集めています!

紳士服が売れない



在宅勤務が主流になり、紳士服の売り上げが大幅に減少して、関連産業が大きく打撃を受けていることを示す資料です。

(浦幌町立博物館所蔵)

Pick up BOOK [注目の本]

図書館から

『たまたま、図書館長。』

鳥越美奈(著) 2020年12月25日発行
四六判並製力パー 199頁
郵研社刊



学校を卒業しても、働きもせず家にいた著者が、図書館の非正規職員から海外研修プログラムに合格。ドイツの図書館での実習を経て、広島の上原市立図書館長に就任します。日本とは大きく異なるドイツの図書館の紹介や、彼女の図書館司書としての働きが綴られています。本書を読むと、図書館に対する価値観が変わるかもしれません。

また、図書館運営を通して、地域の発展についても考えさせられる一冊です。

(浦幌町立図書館 司書 山崎菜摘)

【図書館での配架場所】

総記コーナー

分類記号→ 010.4ト